

第1回法人評価委員会における指摘事項

資料4

項目番号	指摘内容		
(23)	国内特許出願数の設定は妥当か。他大学との比較などはどうか。	大項目Ⅰ の評価に 関係	
(23)	「外部研究資金30億円」の達成指標が未達であるのに、○なのはおかしいのではないか。目標が高いのであれば、下限1割の範囲内を目標達成とみなすなどの評価方法が必要ではないか。		資料4① 参照
(50)	下記実績の記載箇所は正しいか。 「 ■全学の戦略策定・推進のため、教育推進本部、研究推進本部、国際・社会連携推進本部の3本部を新設。 」	大項目Ⅱ の評価に 関係	
(51)	新規女性職員や研究者比率の増加や他の項目の実施状況をみても、◎の評価でもよいのではないか。		資料4② 参照
(55)	スペースチャージ制度は「検討」が達成目標なのだから、○の評価でもよいのではないか。		
(56)	外部資金獲得実績の表に、教育資金も加えて記載すべき。		
(56)	下記計画に対応する実績の記載が必要。 『 ■公開講座や獣医臨床センターの診療等において自主財源の獲得に努めるとともに、法人が徴収する料金の新設・見直しなど、財源確保の方策について引き続き検討を行う。 』		
(62)	下記実績は、グローバル化に関する項目にも記載してはどうか。 英語による情報発信として、Facebookページ(英語)による情報発信を月平均4件実施。		
(63)	下記実績は、グローバル化の項目にも記載してはどうか。 ■大阪府立大学後援会と連携し、下記事業を実施。 ・海外語学研修助成金事業(1名2万5千円の助成)を実施し、62名受給。(H28年度39名) ・TOEFL/IELTS受験料助成事業(1名1万円の助成)を実施し、8名が受給。(H28年度3名)		
(65)	「高専においては、」は不要ではないか。		
(68)	下記の下線部だけ詳細な記述になっており、不要ではないか。 ■内部統制機能の充実を図るため、監事監査、内部監査、研究費不正防止モニタリング監査を実施。また、管外出張報告から50件を抽出し、<u>応接相手に対して書面による事実確認を行う旅費特別調査を実施。</u>		
(68)	研究費不正使用防止に関する独自のe-learning教材とはどのようなものか。		